



道

みちもり

守

MICHIMORI  
TSUSHIN

通信

vol.26 秋号



**巻頭インタビュー**

協働の街づくり 心強い道守

金子健次 (柳川市長)

**みちづくし in 長崎2013**

ラクダや象も歩いた「長崎の道」  
軍艦島、丸山、夕日…を楽しもう

なぜ、ゲリラ豪雨は多くなったのか

松嶋憲昭 (気象予報士)

**各県道守会議からのメッセージ**

道守活動10年新たな出発へ

## 道守九州会議 設立趣旨

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄り、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組み人々が増えている。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るといふ新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。さあ、新しい道に一步踏み出そう。



「九十九島と遊覧船」九州風景街道フォトコンテスト入選作品  
ながさきサンセットロード  
(撮影者：荒谷 真二)

### CONTENTS

- 01 巻頭インタビュー  
協働の街づくり 心強い道守  
金子健次 (柳川市長)
- 02 みちづくし in 長崎2013  
ラクダや象も歩いた「長崎の道」  
軍艦島、丸山、夕日…を楽しもう
- 04 各県道守会議からのメッセージ  
道守活動10年新たな出発へ
- 07 道守の輪
- 08 なぜ、ゲリラ豪雨は多くなったのか  
松嶋憲昭 (気象予報士)
- 10 わたしの好きな道  
別府湾岸・国東半島海への道 牧佑奈
- 11 私たちの道守活動
- 14 ちょっとよりみち 唐津街道むなかた
- 16 海外道事情  
クラクフ (ポーランド) 福本 仁志
- 17 道守人物伝・道守たちのトピックス・編集後記

表紙画：久富 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

### 巻頭 インタビュー

# 金子健次

KENJI KANEKO

(柳川市長)

## 協働の街づくり 心強い道守

道守柳川ネットワークでは、「できる人ができることから」を合言葉に、清掃等を通じて、柳川をよりよいまちにしたいと活動しています。まずは、市長が目指すまちづくりについてお尋ねします。

ぎわうまち柳川へ「観光と文化の薫り高いまち柳川へ」「子育て福祉のまち柳川へ」「便利で住みよいまち柳川へ」「市民目線で行政のまち柳川へ」の6つの施策を掲げまちづくりに取り組んでいます。中でも柳川は、年間110万人を超える観光客が訪れる観光のまち

く、美しい環境ではないでしょうか。市長が目指すまちづくりは、まさに道守柳川ネットワークの思いでもあります。現在の道守活動について、どのように感じていますか。

おもてなしの心が広く伝わっているのではないかと思います。また、昨年5月にここ柳川で初めて九州市長会を開催した際のご協力も、非常に心強いものでした。ゴールデンウィークに多くの観光客でにぎわった観光地の清掃にいち早く取り組んでいただいたおかげで、九州各地からお越しの市長様方を最高の状態で迎え入れることができました。

ことをお聞かせください。市長 本市では、これまでも道守柳川ネットワークと共にまちづくりを行ってきましたが、今後はますます、民間と行政が同じ目的達成のため、互いの立場や特性を生かして協力する、協働のまちづくりが求められてくるでしょう。道守柳川ネットワークの活動が10年目を迎える、その活動が広がり、根付いていくことで、「地域への愛着」や「おもてなしの心」といった思いが市民の間にも広がっているように感じます。この活動の輪がさらに広がるためには、行政側もしっかりと取り組まなければなりません。お互いに協力し、連携しながら、また、新たな事にチャレンジしながら、よりよいまちづくりを進めてまいります。



「白秋祭」と春の「柳川雛まつり さげもん巡り」に合わせて清掃に汗を流していただき、大変感謝しています。特に、春の清掃は「堀と道クリーンアップ大作戦」として、市と共催で行っていたいただいています。市内を巡る掘割の水を落として消毒・清掃する伝統行事「水落ち」の期間に堀と道を一斉清掃するこの活動によって、柳川を訪れる方々へ歓迎の気持ちを表すのが目的です。道守の皆さんに協力していただくことで、市を挙げた大きな活動となり、市民の

ありがとうございます。道守柳川ネットワークの活動は、10年という節目の年を迎え、さらなる活動の充実を目指しています。最後にこれからの道守活動に期待する



プロフィール  
昭和23年生まれ。福岡大学商学部商学科卒業。柳川市役所福祉事務所長、柳川市役所議事会事務局長を経て、平成21年、柳川市長就任。

11月1日、長崎市で開かれる「みちびくしin長崎2013」。長崎街道をはじめ、歴史豊かな、美しい「長崎の道」を楽しんで下さい。

### 日見峠

鎖国を強い藩政時代は街道文化が繁栄を極め、特に長崎は大陸との玄関口として様々な人や貿易品が行き交い、駱駝や象も日見峠の道を通っている。日見峠は街道時代交通の難所として知られ、江戸からの旅人はそのまま長崎に入ることをためらい、日見宿で一泊した後、早朝に入っていたが、歴史が下るに従い、ますますその重要度を増す。羊腸たる坂道だった峠道は、明治15年(1882年)、国道1等に認定され、わが国最初の有料道路として装いを新たにす。



「西の箱根」と呼ばれた長崎街道かつの難所日見峠

車馬なども楽に通れるようになり、往来も大変便利となった。長崎市史年表(長崎市)には「工費47,340余円、うち国庫補助金29,000円で、残りは会社が負担した」とある。江戸時代、長崎から小倉間を結んだ長崎街道。江戸参府に赴くオランダ使

節、幕末の志士たち：往くも還るも、旅人の心に「長崎」を焼きつける峠道でした。平成8年に旧建設省(現：国土交通省)の歴史国道として選定されている。

### 軍艦島

長崎半島から西に約4.5km、三菱石炭鉱業(株)の主力炭鉱があった高島から南西に約2.5km、長崎港から南西に約19kmの沖合に位置する「端島」。端島は、南北に約480m、東西に約160m、周囲約1,200m、面積約63,



海底炭鉱の島・軍艦島

000㎡という小さな海底炭坑の島で、塀が島全体を囲い、鉄筋コンクリートの建物が立ち並ぶその外観が軍艦「土佐」に似ていることから「軍艦島」と呼ばれるようになりました。海底炭坑として栄え、日本の近代化を支えた後、長い眠りについたその島にはかつて暮らしていた人々の歴史とたくさんの夢があったのです。

### 丸山

中の茶屋は、丸山(寄合町)の遊女屋「中の筑後屋」が、江戸時代中期に茶屋を設けていたところで、当時、長崎に居た唐人が千歳窩と名付け、この名に因んで別名を「千代の宿」とも呼ばれました。

中の茶屋は、花月楼と共に丸山最高の茶屋として、長崎ばかりでなく他郷の人々にも知られ、内外の文人墨客が好んで遊び親しみ、長崎奉行の市中巡検の際にはその休憩所にあてられることもありました。幕末期にできた俚謡「長崎ぶらぶら節」には、「遊びに行くなら花月か中の茶屋 梅園裏門たたい丸山ぶらぶらぶらりぶらり」という



長崎市指定史跡「中の茶屋」



大バエ灯台：生月島最北端の絶壁の上に立つ灯台。塔の中には自由に入出りできる展望スペースが設けられており、天気良ければ壱岐や対馬が望める。夕日の名所としても知られる



大日本早見道中記(幕末)(長崎街道の全行程)(出典：『長崎街道と土木遺産案内—長崎市街地から日見峠にかけて—』岡林隆敏著)



提供：シュガーロード連絡協議会

## 長崎の道を楽しく「さるい、て下さい。」



九州各地の道守会員の皆様一堂に会する交流会議「みちびくしin長崎2013」が道守九州会議の設立十年の節目の年に長崎で開催されることを心よりお祝い申し上げます。「みち」を舞台に、あるいはテーマに道路の美化や調査・研究等、住民と行政が「協働」して様々な活動を行う道守は、九州に誕生したユニークなボランティア活動であり、道守の皆様の多彩な活躍に感謝申し上げます。

ご参加の皆様が交流を深められますとともに、数々の物語を刻んできた長崎の「みち」をさるぎ(散策しながら、石畳にしみ込んだ歴史と文化を肌で感じていただければ幸いです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(長崎市長 田上富久)

たもんだいちゅう」と詠み込まれています。

今回の現地体験学習会の丸山ぶらぶら思案橋コースの中で庭の見学が予定されています。

### 長崎街道

長崎街道は江戸時代の街道の中でも、五街道に次ぐ脇街道であったが、海外貿易、国防政策、和蘭商館長の江戸参府など、異国文化や情報が行き交った他の街道にない特別な街道であった。豊前小倉の常盤橋を始点として、豊前・筑前・肥前を通り、長崎を終点とする、25宿、約57里(228キロ)。

小倉から筑前黒田領の筑前六宿(黒崎・木屋瀬・飯塚・内野・山家・原田)、対馬領の田代、肥前佐賀領の十宿(轟木・中原・神崎・境原・佐賀・牛津・小田・成瀬・塩田・嬉野)、肥前

大村領の三宿(彼杵・松原・大村)、再び佐賀領に入り、永昌宿(諫早)・矢上を過ぎて、天領である日見、長崎に至る。途中、内野宿と山家宿の間の冷水峠、原田宿と田代宿間の三国峠、嬉野宿と彼杵宿の間の俵坂峠等の難所があり、最大の難所として日見宿と長崎の間の日見峠越えがある。

### シュガーロード

江戸時代、海外との唯一の窓口であった出島に荷揚げされた砂糖は、長崎から、佐賀を通じて小倉へと続く長崎街道を通じて、京・大坂、江戸などへと運ばれて行きました。

街道沿道は砂糖のほか、菓子作りの

### 夕日の道

日本本土最西端に位置する長崎県の目の前には、雄大な東シナ海が広がっており、どこからでも広大な海に沈む美しい夕日を見ることが出来ます。

「日本風景街道 ながさきサンセットロード」の名称は、その美しい夕日が由来となっています。

皆さんもぜひ、ドライブにこのながさきサンセットロードを訪れ、美しい夕日を堪能して下さい。



## 各県道守会議からのメッセージ

# 道守活動10年

# 新たな出発へ

平成十六年二月。「道守九州会議」が立ち上がった。行政任せでなく、「現代の道守は、住民と行政が協働し、道と人の新しい縁を紡ぐ」（設立趣意書）と。以来、10年が経過する。

当初、道守九州会議のみの設立だったが、同年3月に道守くまもと会議が結成された。以後、大分、みやざき、佐賀、かごしま、長崎、そしてふくおか。気づけば九州全県の道守が立ち上がった。花植え、清掃などの沿道美化、防災、公共物の維持管理、広報活動等々。地域に根ざし、人への優しさという自らが楽しむことが基本の道守活動である。

その中で、道守九州会議は、各県の活動を支え、各年の道づくし大会の支援、27巻に及ぶ道守通信の発行、アクセス6万超のHPの運営を行ってきた。

## さらなる10年へ、前進

諸団体、行政との数えきれない情報交換も。少子高齢社会が進む中で、公共事業をめぐる論争に翻弄され、そして何よりもたびたび襲われた大規模な自然災害に怯まず、九州をよくしたい、交わりの道を守りたい一心の活動であった。設立総会の数百が、いまや5万7千人。よくぞここまでの道守結集である。

発足時の短歌募集 最優秀作、「この道せんねんまえにあるいてた 人も見たかも されない夕日」（森川有）。まさに、千年前の万葉の道守精神を現代に引き継ぎ、この10年はその実現に向けた試練の一步だった。しかし、次の一歩がより大切である。「More 10」。平たんな道でない。さあ、みんなで手をつなぎさらに歩こう。

（道守九州会議 代表世話人 樗木 武）

### 道守ふくおか会議

#### 生き生きをモットーに

糸島地区では、できることを、無理なく、楽しく、仲良く、いきいき続けることモットーに平成10年より、自然を愛する人との出会いとふれあいを求めて、「いとしまラブアース・クリーンアップ作戦」を展開し、「環境美化清掃点検行動日」に公共施設周辺におけるごみ拾い及び点検を実施してきました。平成14年にはVSPに登録し、活動日には糸島市・福岡県の協力を得て実施しています。平成19年には国土交通大臣から感謝状をいただきました。ユニークな取組としては、清掃活動場所に通り名（愛称）を付け、国民の財産でもある道路を綺麗にすることで少しでも住み良い街づくりができればと思いい活動が続けています。

また、小学校児童たちはこの活動が縁で「総合学習」の時間に「自然環境や自分の街の環境美化について」とも考え、行動プランをつくり一緒に行動もしています。昨年度は橋の架け替え工事に伴い現場見学会を計画したり、その新橋の床版をキャンパスに見立て「将来へのメッセージ」をテーマにタイムカプセルとして未来に残す活動も行いました。

道路ふれあい月間では、道づくりは人づくり。人づくりは国づくりのもと、協働の環で沿線企業をまきこみ、毎年、道路清掃活動を行っています。今後より良い道路環境を「糸島」から次の世代へと繋いでいきたいと思っています。

（道守ふくおか会議 ごみゼロ青春探検隊いとしま 酒井忠彬）

### 道守佐賀会議

#### 道守絵巻きに取り組む

平成16年、「道と人との新しい縁を紡ぐ、一步を踏み出そう」として道守会議が設立されました。この時より、単独でのボランティアであったのが、九州一円で、関わりを持ち、縁を紡ぐボランティアとしての始まりでした。

同年早々佐賀会議の発足、以来事務局として、他のボランティアの方々と、パネル展・道守体験（花植え・ひな祭り清掃・道の見学）などのPRと協働作業を行い、早10年が経過しようとしています。

中でも、『佐賀城下ひなまつり、おもてなし清掃』は、佐賀のひなまつりイベントの開催前に、来佐される方が気持ち良い散策となるように、発足から毎年清掃活動を実施しており、新聞、市報、チラシ、口コミなどで、回を重ねる毎に、子どもたちと一緒に一般参加が大幅に増え、「清掃でおもてなし」が定着している状況です。

今後の活動を模索する中、一般の方の参加が多い『ひなまつり清掃』にて、何か興味を引く物、思いが残る物、PRに繋がる物として、参加者の道に対する自由な思いが書け、他の活動へも継続利用できる『佐賀の道守巻物』に取り組みとしました。この10年目を期に『新しい踏み出しで、新しい縁を育てよう』と、更なる展開を目指します。

（道守佐賀会議事務局）

### 道守長崎会議

#### 道を守り、街をつくる

平成16年、道に関する活動を行っているグループの情報交換のためのネットワーク、「道守長崎会議」が発足しました。

それまでは長崎県各地でそれぞれのグループが道路清掃、植栽、調査など独自の活動を続けていましたが、道守長崎会議設立により会員間の情報交換を行い、行政に働きかけて協働での活動もできるようになりました。各地域にブロック会議もできて会員が増えるに従い新たな事業を取り組みに発展させて行くべきではないかとの思いから、NPO法人道守長崎を発足しました。

道守活動がまちづくり、まちおこしへと繋がっていく活動を目指し、これまでも長崎地区では「花いっぱい」とXmasストリートプロジェクトin新大工」や「長崎各地での通り名プロジェクト」などの事業が行われ、小浜地区では様々なイベントを企画してまちづくりに広がっています。

さらに、西海地区では道路清掃、植栽からの生ゴミ堆肥づくりへと発展し、地球環境への取り組みへと繋がっています。

私たちは、もう一度、自分達を使う道は自分達で守ろうと、お互い連携を図りながら、ひとりでも多くの賛同者を増やし、道を守り、街を創り、人を育てるという目標のもと、交流イベントをはじめ、啓発活動に取り組みたいと思っています。

また、10年目を迎え、各地域において一人一人が道守活動を継続・発展させることを目指します。

（道守長崎会議 代表世話人 牧圭子）

### 道守くまもと会議

#### 道守活動を通じて

#### 地域への愛着を！

道守くまもと会議は平成16年3月11日発足し、熊本県内の「道」に携わるNPOや市民団体、個人、企業などとネットワークを形成し、道の美化活動、愛護活動を行ってきました。活動の5本柱は①道路の美化・植栽、②道路の清掃・愛護、③道守活動の告知（街頭活動など）、④歴史街道の顕彰（街道ウォークなど）、⑤道の学習（道のフォーラムなど）。小学生から高齢者まで世代を超えた会員が参加し、道を守る「道守の精神」が少しずつ根付き、道を守ろうという心が地域を美しくしています。

かつては、家の前の道を掃いたり、生け垣を剪定したりと、身近な道を美しくすることは当たり前の習慣でした。しかし現代ではマンションが増えるなどして、ご近所とお付き合いも希薄になりがちです。地域との関わりが薄く短期居住者の方々でも、地域との関わりが深まれば、地域への愛着も高まり、ゴミのポイ捨ての抑止にもつながると考えられます。そこで、こうしたコミュニティとのつながりの希薄な方でも気軽に活動に参加することを通して、普段利用する道への愛着を自然に覚えるような仕組みづくりが必要だと思えます。

生活に密接に関わる道を相手にする活動だからこそ、道守活動に参加することによって、地域の活性化や地域の連携の強化につながれば、大変うれしいことです。

（道守くまもと会議事務局）

道守大分会議

何より女性陣の強さ

大分の道守活動の基盤は、「女性陣の強さ」にあると思います。発足当初より、竹田の堀さんをはじめ女性陣は、自分の住む地域・暮らしの道を守るため、揺らぐことなく、その必要性を唱え続けてきました。未来の子どもたちへ繋げるために、いつもパワー一杯に動いています。

そして2つめは、国道にマイツリーを植樹し、自分たちでお世話をするという仕組みを作ったことです。住んでいるエリアを超えたボランティア活動ができ、公共の道に「自分の樹」を植えることができたことは、道に対する「誇り」と「自信」を持つきっかけになりました。

マイツリー植樹は、民間・行政を超えた「協働」でやる楽しさを発見・確認することが出来ました。そして今年、県内で4つ目の風景街道の登録が実現しました。今回登録された「別府湾岸・国東半島海への道」は、6市町村を跨ぐ広範囲です。この認定は、まさに10年間の道守活動の中で生まれたネットワークが、地域を超え、人や行政、企業を結んできたからだこそと思います。

発足から10年が経ちましたが、「年に1回やけど総会で懐かしい人に会いに行こうかね」と思いを馳せたり、災害時には心配で顔が浮かんだり、心の交流も深まっており、古代から脈々と続く道守の精神を広く深く受け継いでいます。

(道守大分会議 代表世話人 桑野和泉)

道守みやざき会議

三位一体の活動、さらに

道守みやざき会議は平成16年に25団体・総数1436名でスタートし、今日では83団体・総数約1万人の規模に発展してきました。当時の記録を読み返してみると「道路でのボランティア活動の安全確保をどうするのか」とか「活動が重複し、忙しい」、「南北に広い地理的条件から、中央だけの設立ではなく、ブロックで活動したらよいのでは」等々、今の活動の基本的な点を見据えての熱い議論がなされており、先見の明に心から敬意を表したいと思います。

道守みやざき会議では、それぞれの地域の主体性を尊重し、ボランティアの輪を広げて仲間を増やしていくことを主旨として活動を続けてまいりました。そのなかでシンポジウム、さらにこれを発展させる形で道守体験とともに地域の文化等に触れる「道守みやざき交流会」をブロックを持ちまわる形式で実施し、活動の輪を広げています。

また、課題の資金面についても、まず県央地区において花壇内にサポート企業等のプレートを設置する企業協賛による「フラワーサポート・システム」を道路管理者(国・県・市)、交通管理者(警察)、屋外広告物担当部局(市)との理解ある協議により実現、今後の広がりを期待しています。

また、道守体験交流会などを通じ、人材発掘を図るとともに「道の駅」との連携を深めていきたいと計画しています。

三位一体(住民・行政・企業)の連携により道守活動のさらなる発展を心から願っています。

(道守みやざき会議 代表世話人 新名典忠)

道守かごしま会議

思いが思いを呼ぶ

道守かごしま会議は、平成16年7月7日に12団体・個人の参加で設立されました。活動も徐々に活発になってまいりましたが、まだまだ、県民の皆様には「道守かごしま会議」について十分に知られていないのが現状です。道守活動の普及、道守会員の活動の輪がさらに広がっていったらとの思いで毎年「座談会」を開催しています。

大きな転換期がありました。それは道守九州会議交流会5回目の節目の年、「みちづくしin鹿児島2008」を鹿児島で開催させて頂いた時です。手を挙げた以上、成功させなければと2年前から準備致しましたが、急にシステムが変わったのです。それまでは道守九州会議の主催でしたが開催地で実行委員会を立ち上げて主催するという形となったのです。

資金面のめども立たない中、戸惑いと不安でいっぱいでした。当時大河ドラマ「篤姫」の放映中で、明治維新の地・鹿児島から「新しい道守維新」とまで言われ胸を熱くしたものです。その時の行政・各県会議の皆様のご協力、温かい言葉が大きな力となり、道守かごしま会議が一つになった大きな出来事でした。

今では、新しい仲間が増え80団体になりました。「思いが思いを呼ぶ」という連鎖がどんどん広がっている事は嬉しいことです。人と人との絆を大切にしながら、道守というネットワークで繋がっていることに感謝しています。

(道守かごしま会議 代表世話人 田島直美)



道守表彰制度を創設

道守九州会議も設立10年が経ち、多くの人々が日々「道」を舞台に活動しています。

10年の節目を迎え、「道」にかかわる様々な活動や「道」を守り育てる意識のもと活動している道守貢献者に対し表彰する制度を創設しました。

表彰対象者は、道守活動に貢献したすべての人が対象となり、「献身的な精励・尽力のある活動」、「顕著な功績が認められる活動」、「他の模範となる活動」、「先進的な取り組みのある活動」や「発信力のある活動(道守の広がり)」に貢献する活動」を対象に、各県道守会議と各事務所道守支援室で各々推薦し、道守九州会議代表世話人を委員長とした「道守表彰委員会」にて選定しま



第1回表彰委員会風景

そこで選ばれた道守貢献者は毎年開催される「みちづくし」で、道守九州会議代表世話人より表彰することとしています。

第1回目の表彰者選定は、平成25年9月19日に行われ、11月1日、2日に開催される「みちづくしin長崎2013」の1日目「交流会」の中で発表し、表彰します。

道守九州会議 運営会議開催

発足10年、今後の活動3項目を確認 道の駅、行政との連携など強化へ

平成25年9月19日に今年度の道守九州会議運営会議を開催しました。各県道守代表者と各事務所支援室等総勢50名にて、平成24年度決算・監査報告及び平成25年度予算承認や各県道守会議の活動概況報告などの意見交換を行いました。道守表彰制度についても、了承を得られました。

活動報告では道守ふくおか会議から、道守柳川ネットワークより「知事のおふるさと訪問」で知事と意見交換を行い、アドバイスをもらった事や北九州ブロックでは、「北九州市道路サポーターの会」が「道路ふれあい月間」国土交通大臣表彰を受賞し、同会の22団体へ事務所長から感謝状を贈呈されたなど活動の概況の報告があり、また、道守長崎会議からは「みちづくしin長崎2013」について、「道守長崎会議一丸となっておもてなしの心でお待ちしています。」との決意が披露されました。



活発な意見交換が行われた運営会議

この運営委員会で今後の活動について①道守と日本風景街道、道の駅の連携を強めていく②発足10年目の節目を迎え、登録団体の活動実態を確認しながら更新をおこない団結を図る③「行政と民間の連携」の原点到ち帰り、もう一度強化、パートナーシップを築き、新たな10年に向けて歩みだすこと、の3点を心に留め、今後の道守活動を進めていくことになりました。

道路緑地の雑草防除の取り組みに関して、九州技術事務所の構内で栽培している多肉植物「モリムランネングサ」の苗を希望者に分けてくれるそうです。

九州北部豪雨など、最近、ゲリラ豪雨と呼ばれる大雨が多くなった。大きな災害を残すゲリラ豪雨とは――93鹿児島豪雨を経験し、気象予報士となって活躍している松嶋憲昭氏に解説してもらった。

### 1. ゲリラ豪雨

「ゲリラ豪雨」は気象用語ではありません。お天気お姉さんが使うことはあっても、気象庁が正式の気象解説で使うことはありません。ウィキペディア

の大雨という意味では、このときの大雨もゲリラ豪雨の仲間に入るのではないのでしょうか。このような大雨、はたして、どのような仕組みで発生するのでしょうか？

空気から細かい水滴が大量にできる必要があります。大量の水滴が集まったときに、水滴同士が結合して、より大きな水滴へと成長し、やがて雨となつて地上に降ってくるのです。



積雲  
積乱雲

### 2. なぜ雨が降るのか？

1m<sup>3</sup>の空気が含むことのできる水蒸気量は、温度によって変化します。たとえば、気温30℃のとき約30g、気温20℃のとき約17gです。気温30℃の湿

### 3. 積乱雲とは？

晴れた日、日差しによって地表の温度が高くなると、地上付近の暖められて軽くなった空気が上昇し、やがて膨張して温度が低くなり、「積雲」(綿あ

# なぜ、ゲリラ豪雨は多くなったのか

気象予報士  
松嶋憲昭

雲) (積雲が強い上昇流によって成長し、雲の頂上が高い位置まで達したものが発生します。積乱雲という難しくなりますが、「入道雲」や「雷雲」と呼ばれている雲のことです。夏の積乱雲は背が高く、雲頂が10kmを超えることがあります。

左の図は、積乱雲の成長過程を模式的に示したものです。発達期、上昇流の中で小さな水滴ができます。水滴の大きさは直径0.01mm程度です。成

アに「予測が困難な、積乱雲の発生による突発的で局地的な豪雨を指す俗語」とありますので、夕立を激しくしたような、1時間に100ミリ近い雨をイメージしている人が多いのではないのでしょうか。

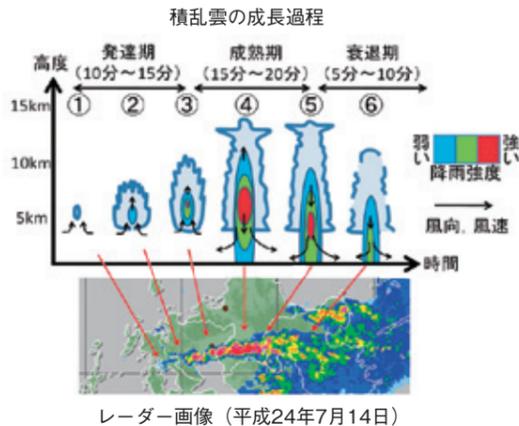
昨年の九州北部豪雨、今年の山口・島根の豪雨、秋田・岩手の豪雨のときに、気象庁から「これまでに経験したことのないような大雨」という内容の気象情報が発表されました。想定外

潤な空気を20℃まで冷やすと約13gの水蒸気が凝結し、水になります。エアコンの室外機についた小さなホースから水が流れ出すのはこのせいです。

自然界でも同じことが起きています。湿った空気がなんらかの理由で冷やされると、大気中の塵や埃が核となつて細かな水滴(または水の粒)ができます。大半の雲は雨を降らせることなく消滅します。雨を降らせるためには、水蒸気を多く含む湿った空気があり、その

めのような形をした雲) ができます。積雲が浮かんでいる高度は2km程度です。この高度は雲の温度と周辺の大気の温度が等しくなつて釣り合っている高さです。冬の雪雲のように、積雲が密に集まつて雨を降らせることがありますが、降っても弱い雨です。

特に日差しが強いときや上空に強い寒気が流入したときには、地上付近の温度が上空よりも著しく高くなつて不安定になり、対流活動が強まり、「積乱



レーダー画像(平成24年7月14日)

## 数10kmを超える雲の塊も

熟期になると、強い上昇流の中で水滴が直径数ミリ程度まで成長し、やがて、その重さを支えきれずに雨になつて落ちてきます。背の高い積乱雲は、雲の中に蓄積する雨の量が多いため、雲の真下では激しい雨になります。今年の7月28日、山口県山口市で1時間降水量143ミリ、萩市須佐で138.5ミリの大雨が降りました。

東シナ海から湿った気流が流入して長崎県佐世保市付近で次々に積乱雲が発生し、発達しながら上空の西風に運ばれて带状の雲を形成しています。福岡県南部で成熟期になり、八女市付近で強い雨を降らせている様子がよく分かります。この带状の雲が東西南北に移動すれば、強い雨が降る場所も移動し大雨になることはないのですが、この日は、この带状の雲が約2時間停滞し、それまでに降った雨と合わせて、福岡県八女市黒木町で半日に400ミリを超える雨が降りました。

気流の収束や地形の影響で带状の雲が発生し、その带状の雲の停滞で起きる局地的な大雨は、現在の予報技術では予想できません。

### 5. 組織化した雲

動植物が小さな細胞から形作られていくように、小さな積乱雲がいくつも集まって、組織化することがあります。上図は、昨年の九州北部豪雨、熊本県阿蘇市で1時間に100ミリの雨が4時間連続した7月12日3時ころのレーダー画像です。南西方向から下層

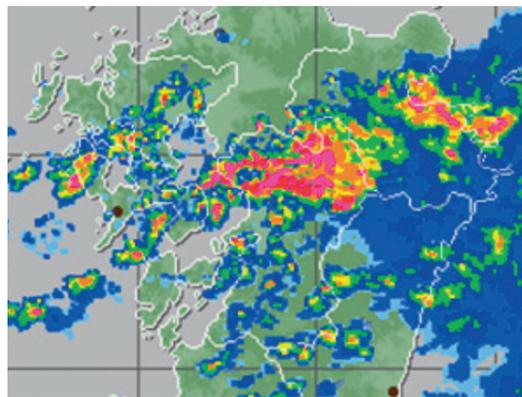
6. ゲリラ豪雨に遭遇したら  
ゲリラ豪雨に遭遇したと思ったら、雨が止むまで待つのが一番です。傘をさしていても、びしょ濡れです。通常の夕立であれば、激しい雨が降っているのは20分程度。道路が冠水するような大雨でも、1時間も降り続くことは稀です。喫茶店でコーヒーを飲んでいれば、空が晴れてきます。

それ以上の大雨に遭遇したら、安全な場所での降り方や周囲の様子を観察しながら待ってください。

### 4. 带状の雲

積乱雲が発生し、一時的に強い雨を降らせても、すぐに衰弱するか移動してしまえば、大雨にはなりません。でも、同じ場所で次から次に積乱雲が発生すると、同じ場所で強い雨が降り続き、大雨になってしまいます。

図は、昨年の九州北部豪雨、福岡県南部で1時間に100ミリを超える大雨が降った7月14日9時ころのレー



レーダー画像(平成24年7月12日)



国道57号、滝室坂(阿蘇市一の宮町坂梨)



●プロフィール  
松嶋憲昭(まつしまのりあき)  
九州防災エキスパート会会長。  
1954年、福岡県生まれ。  
建設省鹿児島国道工事事務所所長のときに、1993年の鹿児島豪雨に遭遇し、それを契機に気象災害の知識普及活動を開始。気象予報士と建設のキャリアを活かして防災技術などについての指導・講演を行っている。  
著書「桶狭間は晴れ、のち豪雨でしょう」メディアファクトリー新書



日本風景街道  
別府湾岸・国東半島海への道  
シンボルマーク



# わ | た | し | の | 好 | き | な | 道

## 海岸線の魅力と歴史文化が融合

～別府湾岸・国東半島海への道～

2013年3月21日、「日本風景街道」に新しいルートが登録されました。

大分市・別府市・日出町・杵築市・国東市・豊後高田市の5市1町をまたがる延長約150kmの街道「別府湾岸・国東半島海への道」です。九州では12か所目、大分県内では4か所目のルートとなります。

このルートは、六郷満山と呼ばれる神仏集合の独特な仏教文化が伝わる歴史遺産、真玉海岸から見る夕陽、深江海岸から見る朝日、杵築の城下町、別府の湯けむり風景、おさるで有名な高崎山の麓を通る別大国道の風光明媚な風景、大分県最古の関崎灯台、「せとうち風景30選」にも選ばれた豊予海峡の風景など、海岸線の魅力と歴史文化が融合する素晴らしい資源の集まったエリアを含んでいます。

私は、学生の頃、このルートを「風景街道」として認定するための活動に携わってきました。その時、道路を単なる交通空間だけでなく、交流空間として活用出来ることを学びました。道路の役割や景観面から見た道路について、アンケートや分析を行い、人の生活や環境・景観と道路との関わりについて研究を重ねました。

「風景街道」に登録することで地域の認知度の向上や活性化など、様々な効果が期待されます。しかし、この効果を持続させることができて、初めて「風景街道」としての本来の目的を果たす事が出来ます。そのためには、パートナーシップの存在が非常に大切であることが分かりました。一番重要なことは道路空間や景観等の維持や管理を官民一体となって継続的に行うことであり、民間の活動団体や地域住民の協力が必要不可欠となります。現在、別大国道は、6車線に拡幅し、

マイツリー運動など市民参加の沿道植樹が進んでいます。また、別府八湯ウォークや新しい湯の町巡りなど様々なイベントも行われています。このような活動やイベントを継続・発展することで「風景街道」の効果を実感できると思います。私は、日本風景街道の研究を経て、道路の多様な役割と地域との結びつきについて学ぶ機会に恵まれ「風景街道」の意義を実感することができました。

「別府湾岸・国東半島海への道」はこれからがスタート。地域全体で繋ぐ街道の発展を期待しています。

### プロフィール

牧 佑奈 (まき ゆうな)

大分県大分市在住。大分工業高等専門学校専攻科卒業後、平成25年度に九州建設コンサルタント株式会社に入社。同年度に道守大分会議事務局に任命される。



# 私たちの道守活動

道に出で、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介していきます。

## 地域から長崎 道守長崎会議

道守長崎会議では、3つの事業内容のもと道守活動を実施しています。

### 交流、通信、そして子供たち

#### 1. 情報交流の継続

道守長崎会議では、会員間の情報交流を目的に毎年、道守長崎会議総会を開いています。「屋台村」も交流で道守たちが直接ふれあいがながら活動の紹介や地元PRなど行っており、お互いの活動の刺激となっています。



道守屋台の様子



うまちかつりーへ飾り付けの様子



西海市大島東小学校児童で育てた苗を長崎市稲佐小学校へ運搬

#### 2. 愛護の心を育てる

毎年12月に長崎市馬町にある国道34号馬町地下歩道新大工入口前で、新大工町子ども会などの子ども達と一緒に「花いっぱい＆Xmas ストリートプロジェクトin 新大工」を開催します。(平成24年度までに計8回開催)

この取組みは、新大工商店街振興組合、NPO道守長崎と国土交通省長崎河川国道事務所が共同で、新大工町子ども会などの子ども達と一緒に清掃活動を行うとともに、花壇への花植えの他、街路

樹のみの木「通称…うまちかつりー」への飾り付け等を行っています。

去年は、長崎県西海市の大島東小学校と連携して、種まきから苗を育て他校などに配り花植えを行いました。

種まきから育てるには、日頃からの世話が大変で、地域の道守メンバーと共同で育て、西海市内の幼稚園や小学校、長崎市の稲佐小学校へも提供しました。花苗を通して他地域と交流し、「心の豊かさや喜び」を感じてもらえたのではないかと思います。

#### 3. 「道」に関する調査・研究や情報発信

道守活動を広く紹介するため、月に一度「道守長崎通信」を発行、会員の活動紹介など行っています。平成20年11月から発行し、現在では57号まで継続しております。



道守長崎通信

## 長崎

### クローバー・ロード清掃隊

#### 「観光の町 佐世保」をきれいに

私たちクローバー・ロード清掃隊は、佐世保市内の道路に携わる建設業4社(株梅村組・村上滝・西部道路(株)・(株堀内組)で結成したボランティアグループです。

九十九島やハウステンボスを有する「観光の町 佐世保」の玄関口である佐世保駅周辺(国道35号線沿いの歩道約1.2km)の清掃活動を緑色の帽子をトレードマークに行っています。佐世保のきれいな町並みと四季の移り変わりを肌感じながら、年4回の活動を無理することなく和気あいあいと続けています。

時折、清掃活動中にすれ違う歩行者の方から「お疲れ様です」と労いの声を掛けてもらうことがあり、元氣付けられる事が数多くあります。今年、クローバー・ロード清掃隊は活動10年目を迎えるとともに、先日「平成25年度国土交通行政功労事務所長表彰」を頂きました。参加された方々の協力と地道な活動が評価されたことを大変嬉しく感じています。



今回の受賞を励みに、私たちの活動が少しでも環境美化につながり、「観光の町 佐世保」に來られた方たちへの「おもてなし」になればと思っています。  
(西部道路(株)班代表 岡野太司)

門司港レトロ花の会

福岡



花いっぱい長い道

「門司港レトロ花の会」の活動区域は、門司港レトロ地区からめかり公園まで延びる長い道路上です。西海岸と呼ばれるレトロの船溜まりには、根強く咲くガザニア。トロッコ列車が通るレトロの建物周辺には、パンジー、紫陽花、ひまわり、コスモス。めかり公園には色とりどりの紫陽花等、訪れる人の目を楽しませてくれる花が沢山咲いています。



夏は水やり、秋は大量の落ち葉拾いなどに苦労していますが、門司港は北九州市を代表する観光地なので、メインの観光スポットだけでなく、駐車場や道路などお客さんが利用する場所を大切にしたいという気持ちで少しずつ始めた活動が、こうして実を結びました。花だけでなく、道路のブロックの間のゴミや雑草まできれいに除きます。メンバーはみんな昔からの顔なじみ。マイペースにしゃべりを楽しみながら活動しています。

(代表 北里幸良)

森永建設株式会社

佐賀



地域の美化と安全のために

私達の森永建設(株)は、佐賀市久保田町に百二十年近くお世話になっている為、地域の方々への恩返しと地域の美化・安全確保のために、年に三回程度の道路・橋梁清掃や河川堤防のゴミ拾いなどを行っています。



今回は、久保田町の主要な交差点部三か所の歩道を除草や土砂の除去作業を行いました。活動を行った箇所は、商店の出入り口に面し、小学児童の通学路にもなっています。土砂や草を取り除くことで、水溜りがなくなり、買い物客や児童の歩行の安全確保にも繋がっているかと思いを活動を行いました。又、参加した社員は黙々と汗を流しながら作業を行い、社員の地域に対する意識が高揚したようでもあります。今後とも地域皆様のために積極的な活動を行いたいと思います。

(森永建設株)

大分



両親のホルトノキ、私たち夫婦の樹、ともに立派に育っています

我が家のマイツリー2本を定期的に管理しています。

1本は、5年前の2008年、両親が金婚式の記念として植樹しました。夫婦で長い人生を乗り越えてきたことを祝う記念樹です。

2本めは、私たち夫婦が関西圏での生活をリセットし別府でのリスタートとして植えた「別府移住記念の記念樹」です。

歩道はサイクリングやハイキングをするには絶好の広さがあり気持ちが良いので、管理といえども季節を感じながら風景を楽しんでいます。

ただ、夏には雑草が凄く、特に今年は猛暑のせいかツツジも枯れて、見栄えが悪くなったり、冬には海風が強いので木には負担も多いようですが、親子の木として管理し生育をずっと見守っていきたいと思っています。



(別府市・若原里美)

宮崎



旭建設株式会社

笑顔で三方よしの地域貢献

旭建設株式会社は、経営理念である「地域に貢献する」という目的のもと、日向市本社周辺の国道10号線の歩道約1.4kmのゴミ拾い、除草活動を平成20年9月から開始しました。活動参加者は約65名で、毎年3〜4回実施し、今年8月で6年、18回目になりました。

昨年までの5年間の活動で、当初タバコの吸い殻、空き缶、ペットボトル、プラスチック、弁当ガラ、雑誌、金属ゴミ等々、とても多かったゴミも少なくなり、「きれいな場所にごみは捨てない」という地域住民の方の環境美化に取り組む意識向上につながったと思います。また、「いつもありがとう」というあたたかい声もかけられるようになり、人のつながりが、昔のように地域住民で助け合い、自分たちで地域を良くしていこうという気持ちにつながっていくのではないかと感じています。



(旭建設株)

熊本



湯浦活性化協議会

自分たちの町は自分たちで作ろう!

私たち湯浦活性化協議会は、熊本県の南部に位置する葦北郡芦北町湯浦で平成3年に発足しました。恵まれた大自然に感謝し、それを十分に活かしながら「自分たちの町は自分たちで作ろうを合言葉に地域住民の連帯感を深め、更には一人ひとりの郷土愛と次世代を担う子供たちへ地域を愛する「心」を育て、地域の伝統を残すための様々なイベントを開催することで地域の活性化を図っています。



平成25年7月21日には県道、湯浦川、河川緑地公園クリーン大作戦を行いました。この活動も始めて23年目となりました。今年地域からの参加者は226名に加え湯浦中学校から80名参加いただき、大変作業がはかどりました。今後も世代を越えて地域を豊かにする活動を続けていきたいと考えています。

(会長 宮島澄廣)

鹿児島



菜の花商工会女性部

花いっばいで迎える街に

菜の花商工会女性部は、薩摩半島南部に位置する指宿市と、全国的にも有数の鯉節産地、旧山川町と薩摩富士と称される開聞岳や唐船峠をうめん流しのある旧開聞町の商工会が平成20年に合併して出来た女性部です。山川地区では、地元住民や童宮伝説の長崎鼻など、休日には大勢の観光客が乗降する陸の玄関口である、JR指宿枕崎線山川駅前の道沿いに、女性部の花壇を作り、市から年二回配布される花の苗を植えて、水まきや草取りを定期的に行っており、いつでも花いっばいで迎えています。開聞地区では、開聞岳の麓から長崎鼻への県道沿いに、黄色いランタナの花を植えるなど合併前から花の道づくりや地区内の老人クラブや学校、個人の花壇を対象にした、花のコンクールを行い、花いっばいのまちづくりの奨励活動を行っています。市の提案公募型補助事業を取り入れ、花の実行委員会を組織して、温室で季節の花の種蒔きから育苗をして、地区内の老人クラブや学校等へ無料配布を行い、地区内の花いっばいのまちづくりを推進しています。



(有馬晃)



ひと目で分かる、まちなみ紹介案内板



追分石も復活



誘導サイン  
説明看板



白壁が続く



格子の壁も



街並みの継承に努力

# ちよつとよりみち 唐津街道むなかた

「唐津街道 むなかた」は福岡市と北九州市のほぼ中間にある宗像市を通る約5kmの「旧唐津街道」のルートです。

## ●江戸時代の面影残す赤間宿

唐津街道は唐津から博多、赤間、芦屋、若松、さらに豊前小倉向かう街道で、赤間宿はその筑前21宿の一つ、福岡教育大学の南に、今も辻井戸や造り酒屋を始めとする大きな商家など、江戸時代からの建物が多く、宿場町の風情を残している。宿場の入り口には、通行人をチェックする「構口」があり、道沿いには古い商家などの白壁や格子戸が並び、参勤交代の殿様が泊まる本陣、家臣の脇本陣、役人の詰所「番所」などがあつた。

## ●原町―建物の修景進む

このルートには、もう一つ、まちに溢れる緑と昔ながらの民家が美しく調和するいやしの風景が広がる「原町」がある。双方とも美術が盛んで、個人美術館やギャラリーが街道沿いで営まれている。

現在、こうしたまちなみを活かしたまちづくりを進めていこうと、灯ろうの設置、道路の美化などが行われ、原町では「まちづくり協定」に基づいた建物の修景が行われている。また、2つのまちでにぎわい再生イベント「九州大道芸まつり」「赤間宿まつり」を開催されている。

## ●まちなみ保全と情報発信

旧唐津街道には、田園風景に囲まれた昔ながらのまちなみが残っています。このまちなみを継承していくことを目指して地域ルートの策定、古民家の活用方法の提案等のまちなみ保全活動を行っています。

地域の魅力を広く多くの方に知っていただくため、地域資源の情報、毎年9月の「九州大道芸まつりin宗像」や毎年2月の「唐津街道赤間宿まつり」など地域のイベントの

紹介などを行っています。おすすめの回遊ルート案内も提供しており、知って、訪れて、楽しんでもらうためのいろいろな情報が満載です。案内パンフレットやかわら版でも散策しながらまちの魅力に親しんでもらえる、旧唐津街道の情報を発信している（ホームページ <http://yorimichi.wawawa.org/index.html>）。

最近では、道の駅「むなかた」が大人気で、新鮮な玄界灘の魚介類が並び、福岡県内各地からお客が殺到、レストランも人気がある。また世界遺産登録運動が進んでいる沖ノ島や宗像大社では、古代の海外交易ルートの様子を示す遺物、遺構が数多く、訪れる考古学ファンが多い。

散策のしくみづくりも進んでいる。街道本来の人が行き交う場の再生を目指して、観光ボランティアによる案内やまちなみを紹介する案内版や誘導サインなどを設置し、訪れる人が快適に散策できるしくみづくりに取り組んでいます。

## ●今後の活動と願い

「ちよつとよりみち唐津街道むなかた」は、唐津街道の宿場町であった赤間、休憩所としての役割を担っていた原町の2地域を中心としたルートで、これまでは両地域での歴史を伝える活動や観光客向けの案内板・パンフレットの作成などを行っており、それぞれの地域での整備は少しずつ進んできました。

今後は、赤間と原町のそれぞれの地域での活動だけでなく、ルート全体としての繋がりが生まれるような活動を両地域で連携しながら行っていきたいと考えています。まずは、両地域の情報が1つになったガイドブック作成やルート全体のまち歩きなど、赤間に訪れた人が原町に、原町に訪れた人が赤間に足を運びたいような活動を行い、来訪者に赤間と原町の両地域の魅力を感じてもらいたいと思っています。



いやしの風景―原町のまちなみ



白壁が美しい赤間宿のまちなみ



にぎわう街道



赤間宿まつり―楽しく“美しく”化粧して、街を歩く

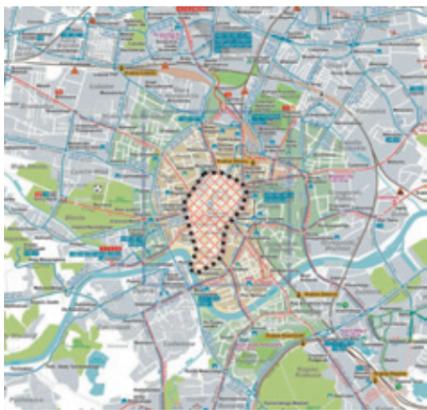


ユニークな芸が披露される九州大道芸まつり（原町地区）

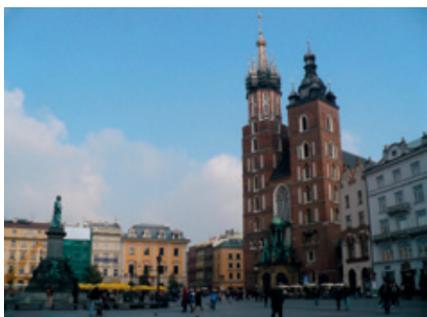


クラクフ (Krakow) は中世までポーランドの首都であり、人口は約75万人。

非戦災都市で旧城郭内は1978年の世界遺産登録第1号(全12件)の一つである。旧城郭内は格子状の市街地で歴史的な街並みが残っており、このエリアには監視カメラによる厳しい自動車進入規制を実施していてタクシーすら日中は入れない。わずかに観光客向けにゴルフ場の



クラクフの旧城郭(点線内部)



旧城郭内の教会と広場



クラクフの最新型の路面電車

## 監視カメラで自動車乗り入れ規制 環境配慮の旧城郭内、世界遺産第1号

カーポートのような乗り物が走っている。

ここクラクフではCIVITASという都市交通を改善するEUのプロジェクトに参加しており、これまでに旧市街約40haへの自動車進入制限区域の設定、約50台のCNG(天然ガス)バスの購入、デマンドバスの実施、レンタサイクルの導入、などの地球環境に配慮した都市交通施策に取り組んでいる。現在でもマイカーと公共交通(路面電車と路線バス)の利用割合は4:6となっている。

路面電車は、複数の路線で構成され、22系統・車両約420編成・総延長90km。我が国で最長の路面電車ネットワークを有する広島電鉄(8系統・車両130編

成・総延長約35km)と比べてもその規模の大きさがよく分かる。

運賃も安く、24時間乗車券は15ズロチ(約450円)。しかも我が国で見られるような1日乗車券とは違い、最初に買ってチケットチェックを受けてから24時間の乗降車が可能であるので実質2日間使用することができて非常にお得感がある。少し郊外へ行くと路面から外れて専用軌道となり、鉄道並みの速度で運行され、都市内交通と都市間交通を兼ねている形になっている。

路線バスも周辺12地域まで含む広い範囲を、約130路線、約500台、延長約900kmで運行しており、路面電車と

路線バスであわせて毎日約100万人の乗降客を運んでいる。これは横浜市の市営地下鉄と市営バスの乗降客に匹敵するボリュームである。

民主化運動からすでに20年経った旧東欧諸国。クラクフでもずいぶん自由主義経済が浸透している印象を受けたが、この貴重な都市交通ネットワークは歴史ある美しい街並みとともにいつまでも後世に残して欲しい。



クラクフの路面電車ネットワーク



プロフィール  
福本 仁志  
国土交通省九州地方整備局  
鹿児島国道事務所長。  
同省都市局都市計画課都市計画調査室課長補佐、同省道路局路政課課長補佐を経て平成25年4月より現職

## 道守 人物伝

### 豊後街道を小、中学生と歩く

自然を愛する会 理事長  
阿南誠志さん

23歳頃に行った東南アジア旅行で世界の美しい人々の実情を目にし、「自分はこれいいのか」と疑問を抱きました。ちょうどその頃結婚も重なり「好きな山で食べていこう」と決意し、登山用品店を始めました。開業直後からお客さんを対象にした山岳会をつくり、登山ツアーを企画。後に現在の自然を愛する会に発展しました。

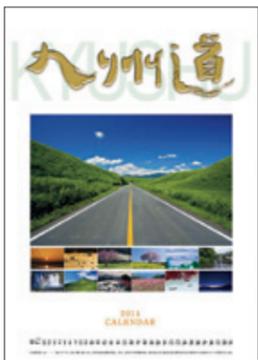
山に携わる活動が続ける中で、受験戦争の中で自然に触れずに育つ現代の子供たちを見て疑問を抱き、小中学生を対象に6泊7日で大分市から熊本市まで歩く「参勤交代・九州横断(豊後街道) 徒歩の旅」を始めました。山道から大きな道路まで、道を歩く中で子供たちが変わるきっかけとなる機会を提供することが役割だと思っています。



## 道守たちのトピックス

### 九州の道と風景の魅力 カレンダーで広く発信

九州風景街道推進会議委員の東島治男氏(社)日本広告写真家協会九州支部理事・東島治男氏は九州の道とその風景や景観をテーマとした季節毎の写真作品の撮影に奔走されています。これら写真を中心素材としたカレンダーを発売され、九州の道風景の魅力を広く発信、2014年版カレンダーも既に製作、10月中旬以降販売もされます。



※取り扱い福岡市内書店・紀伊国屋書店(ゆめタウン)店・博多駅本店、金文堂書店各店、リール天神店、丸善書籍販売店

### 九州地方整備局道路部長に 喜安和秀氏が就任

喜安和秀部長は、(前)

山内正彦部長の後任として、平成二十五年九月より独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構から現職に就任。今回は六度目の九州勤務。愛媛県出身。平成二十年には熊本河川国道事務所長として、道守くまもと会議の皆様と一緒に汗をかき、道守活動を行ってきた。「今後も道守の皆様と協働・連携して、道守を盛り上げて行きたい」と話している。



## 道守通信 編集後記

〇みちづくし交流会も今回で10回を迎えます。今回は11月1日、2日に長崎市で「人と道との新たな絆」をテーマに開催されます。「道守10年の奇跡と展望」というテーマで各県会議代表によるパブリックミーティングや長崎の子供達を実施している花苗の育成から花壇づくりまでの活動報告など盛り沢山の内容です。翌日は、長崎のみちを「さるき」、軍艦島に渡り近代遺産を楽しみましょう。

〇この10年間、九州会議や長崎会議の発足に尽力された阿野史子さんが、6月28日にご逝去されました。パワフルで明るく、持ち前のリーダーシップで長崎会議の基礎をつくられ、道守活動をはじめ、まちづくりや人づくりに精力的に頑張っておられました。道守りの皆様も多くのご指導があったことと存じます。阿野さんの思いに報いるためにも是非、今回のみちづくしを成功させたいと願っています。心からご冥福をお祈り申し上げます。

〇今回のトップページ、初めての企画「巻頭インタビュー」が登場です。柳川市の金子市長と道守ふくおか会議・柳川ネットワーク代表の山田さんにインタビューしていただきました。お二人には快くお引き受けいただき、金子市長の満面の笑顔で和やかな紙面でのスタートです。今回は是非に我が地域で立候補される所は九州会議事務局までお申し出下さい。

〇今年から道守表彰制度が始まります。「道」に関わる様々な活動に貢献されている方達を表彰する制度です。各県会議や国道事務所から推薦された方の中から道守表彰委員会で選定し、毎年開催される「みちづくし」にて表彰することになりました。これから末永く、皆さんで功績をたたえていきたいと存じます。

〇風景街道紀行は、「唐津街道 むなかた」です。宗像市に唐津街道?と思われる方もあるでしょうが、唐津から小倉へ向かう街道で筑前21宿の一つです。宗像市では街並み保全や散策ルートの紹介、九州大道芸まつりなどのイベントで魅力発信に熱心に取り組んでいます。また、最近道の駅「むなかた」は農水産物の販売に人気が沸騰し、100キロ圏域から訪れる人々で賑わっています。是非訪ねてみることをおすすめします。



発行 「道守九州会議」

広報誌「道守通信」春号  
平成25年10月●日発行

## 「道守九州会議」事務局

■道守支援室（九州地方整備局道路管理課内）

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号  
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

■（一社）九州建設技術管理協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/> e-mail [michimori@qsr.mlit.go.jp](mailto:michimori@qsr.mlit.go.jp)